日本青少年訪韓団（第3団）（派遣プログラム）の記録
（対象国：韓国）

1. プログラム概要

日本の中学生等30名が韓国を訪問し，学校訪問，韓国文化体験・視察等を通じ，韓国の文化・社会に対する理解を深めるとともに，各訪問先では人的交流を通じて日本の魅力を発信する等，日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。また，帰国前の報告会では，この経験を活かした帰国後のアクション・プランについて発表しました。

【訪問地】

ソウル特別市，京畿道義王市・水原市・城南市・坡州市・龍仁市

2. 日程

11/10（日）入国（仁川国際空港）

11/11（月）

【表敬】国立国際教育院，【文化体験】韓服試着，【視察】南山ソウルタワー

11月12日（火）

【学校訪問・交流】徳壮中学校

11月13日（水）

【学校訪問・交流】徳壮中学校，【表敬】在大韓民国日本国大使館 公報文化院，【講義】「最近の日韓関係について」，【視察】ソウルキムチ文化体験館，【文化体験】キムチづくり，【視察】明洞（ソウル神学大学学生と共にグループ行動）

11月14日（木）

【視察】サムソンイノベーションミュージアム，【文化体験】短簫（韓国伝統笛）作り，【視察】農楽あそび見学，綱渡り見学，馬上武芸見学

11月15日（金）

【講義】東アジアと平和の道DMZ，【視察】非武装地帯（DMZ）見学プログラム，【視察】統一村（車窓見学），烏頭山統一展望台，成果報告会

11月16日（土）帰国（仁川国際空港）

3. プログラム記録写真 （訪問地：ソウル特別市，京畿道城南市・義王市・龍仁市・水原市・坡州市）

<table>
<tr><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>11 月 11 日【表敬】国立国際教育院(京畿道城南市)</td><td>11 月 12 日【学校訪問・交流】徳壮中学校（京畿道義王市）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>11 月 12 日【学校訪問・交流】徳壮中学校，ホームステイ対面式（京畿道義王市）</td><td>11 月 13 日【表敬・講義】在大韓民国日本国大使館 公報文化院，「最近の日韓関係について」（ソウル特別市）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>11 月 14 日【視察】サムソンイノベーションミュージアム（京畿道水原市）</td><td>11 月 14 日【文化体験】短簫（韓国伝統笛）作り（京畿道龍仁市）</td></tr>
</table>

11 月 15 日【講義】東アジアと平和の道 DMZ（ソウル特別市）	11 月 15 日【視察】非武装地帯（DMZ）見学プログラム（京畿道坡州市）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆　日本　中学生

・多くの人が目にするような大手メディアでは，問題や課題，敵意や憎しみなどとマイナスな事しか放送されない。この仕組み自体は変わることがない。そこで重要な事は知る側の姿勢だと思う。物事を最初に聞いた意見に則して考えるのではなく，プラスマイナス両方の意実をよく知り，その上で意見を持つことが大切だと感じた。

・韓国の方は親切であるとはいえ，政治の関係はうまくいっているとは言えないと思う。この交流をきっかけに少しでも関係が改善するように，友達や家族に今回の経験を伝えていきたい。

・僕の周りにもメディアの報道による影響で少なからず韓国に対してあまり良いイメージを持っていない人がいると思う。そのような人に今回体験したプログラムの内容を伝えて少しでも韓国に対するイメージを変える事ができれば関係改善につながると思うし，それが僕たちに課されたものだと考えている。

・メディアが報道する内容を完全に信用せず，自分で考える事が大切だと感じた。また，固定概念に縛られず，「違い」を「違い」として認める事の大切さを感じた。

5. 受け入れ側の感想

◆　訪問学校

・訪韓団との交流は，終日，パートナーの学生と学校生活を一緒に体験させた事で，私たちとは異なる日本人学生の特性を理解し，お互いに親交を深められる有意義な時間になった。また，全校生徒たちにとってもとても意味のある交流時間が持てたと感じている。また是非訪問してもらいたい。

◆　ホストファミリー

・学校訪問から続けてホームステイを行った事で，子供にとって良い経験になったと思う

し，父兄としてもとても良い機会を与えてもらったと考えている。

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

帰国前夜，一行は成果報告会を行った。発表内容の一部を紹介すると，下記の通りである。

・帰国後に校内で発表の場を設けてもらっているので，今回の訪韓で体感した事，得た知識等をたくさんの人に共有したい。

・弁論部に所属しているので，今回の訪韓で感じた事をテーマにし，たくさんの人に伝えていきたい。

・日本と韓国の間にある問題についてもっと勉強し，今回の訪韓で価値観が異なる事を知ったので，それを認める事の大切さを学んだ。

・韓国に進出している日本企業が多く，経済関係の繋がりの強さを知った。

・日本と韓国は似ているが異なる事を知った。今以上にお互いを知り，前進できるように今回の訪韓で感じた事を伝えていきたい。

（了）